

# 米価下落対策早く

## 島根県農民連が県に要請

島根県農民運動連合会（島根県農民連）は9月28日、県に対し、新型コロナウイルス禍による米価下落対策をはじめ、7・8月



豪雨で農地・農業施設被害に見舞われた農家への災害復旧工事の自己負担免除など従来の枠組みにとられない緊急対策を要請しました。（写真）  
日本共産党の尾村利成、大田陽介の両県議が同席しました。  
田食道弘会長（党奥出雲町議）、河津清副会長（党安来市議予定候補）、清原昭事務局長の3氏は「コロナ禍による米の需要消失は2019年産米の過大な在庫を生み、2

0年産の米価も大暴落の状態。今年10月末の古米在庫は60万トンと試算され、36万トンの減産が実現したとしても効果自体が消散しかねない」と窮状を訴え、▽島根県産の過剰米を生活困窮者や学生などに現物配布▽主食向けを加工米、飼料米などへ転換する米農家に対する加算金の上乗せ▽被災した農家への災害復旧工事の自己負担免除と小損害復旧工事・作業への助成—などを要望しました。

### 希望を持てる対策を 民青県委が県要請

日本民主青年同盟島根県委員会（後藤真実子委員長）は9月24日、コロナ禍の長期化で多くの学生が学業や学生生活での交流やアルバイトの機会を奪われているとして、希望を持てる対策を講じるよう要請しました。日本共産党の尾村利成、大田陽介両県議、舟木健治、橋ふみ両松江市議、吉井

### 国会に駆けあがり「あなたの声」届ける

議席を失ってから毎月寄稿させていた。この民報へのコラムも、気づけば4年が経ちました。今号が総選挙に

むけては最後の回になるでしょうか。  
この4年間の原稿を読み返すと、毎回記してきたのは中国5県各地で出会った方たちの暮らしぶり、聞いてきた声や願いでした。中国地方全107自治体に足を運んだことも紹介しましたが、それは決してただ急いで駆け抜けただけでなく、ちょっと立ち寄っただけでもありませ

ん。その町で暮らす一人ひとりの顔を覚え、名前を伺い、その息遣いも感じながら、声を聞いてはノートに書き、心に刻んできました。  
先月も岡山市の食料支援にやってきた、明らかに痩せこけた女子学

生が「節約のためにこの夏は一度もクーラーをつけず、扇風機も勉強するときにだけしかつけなかった」と話し、お米や野菜を持って帰っていききました。島根県出雲町に伺った際には農作業中の70代とみられる女性と道端で対話に。米価暴落に悲鳴を上げ、自分たち夫婦がいなくなったらこの田んぼももう終わりだと。『西の横綱』と言われる仁多米の産地ですらこういう実態か、と愕然とします。

同時に、常に感じてきたことは、私に議員バッジがあればこうした中国地方で暮らす住民の叫びを国会で訴えることができたのに、という悔しさでした。一方で

安見出雲市議が同席。後藤委員長や門脇遥県常任委員はこの間計7回取り組んだ食料支援活動で、学生から「感染拡大により就職活動にも影響が出る」「奨学金の返済ができるのか」などの不安を訴える声が相次いだこと

### 大田県議の質問（続き）

#### コロナ禍の事業者へ支援を

大田県議は、県の給付金の対象は飲食店のみで給付要件の緩和と対象業種の拡大が求められていると強調した上で、「制度の見直しにあたっては、飲食店はもとより、事業者の声をよく聞き、反映させるべき」と要求。県の「飲食店等事業継続特別給付金」の申請の簡素化やWEBシステムの改善を求めました。

とを紹介。▽学生を対象にしたPCR検査の支援▽困窮する学生への食料・生活用品などの配布支援▽県独自の給付制奨学金制度や学費減免制度の創設▽学生の生活実態調査を強く要望しました。

野津建一教育長は、個々の健康状態や学習状況などを電話やメールで確認する方法となつていると説明し、「子どもたちの学びをどう保障していくのか常に考えていく必要がある。学校や家庭、市町村教育委員会としっかり連携し、子どもたちにとつて最善の方法を検討していきたい」と答弁しました。  
これに対し、大田氏は、学びが保障されていない現実があると指摘し、「現場ともよく相談し、考え抜いて知恵を出していただきたい」と強調しました。

#### 子どもの学びの保障を

大田県議は、子どもの感染や家庭内での感染対策の必要性を取り上げ、「学校のみならず、家庭でも抗原検査キットなど簡易な検査が迅速に行えるようにすべき」と求めました。

また、学校から保護者に配布された「お願い」文書には「家族に発熱や咳などの風邪症状がある場合は、登校を控えるように」と通知されていることを紹介し、「この場

合、兄弟（姉妹）全員が学校を休むことになる」として、学校を欠席した場合でも、子どもたちの「大社基地遺跡群」の保存を求める市民団体の要望に対し、県が「戦争遺跡の価値判断基準が明確に定まっていらないことを勘案し、県指定史跡として指定・保存する考えはない」としていることについて、大田県議は「文

#### 大社基地遺跡群の保存を

化財行政の姿勢として十分とは思えない」と批判。「『国の基準が明確でないから』といって、貴重な遺跡が失われるようなことがあれば、将来に禍根を残しかねない」と訴え、対応を改めるよう迫りました。

大平よしのぶ 前衆議院議員

